

畜産関係労働災害事例集



**ヘルメット・手袋・安全靴
基本です！**

独立行政法人家畜改良センター
安全衛生推進本部

はじめに

畜産業においては、近年、経営規模の拡大が図られ、一戸あたりの飼養頭羽数も増え、これに対応して雇用される従業員も多様化してきました。また、作業機械も大型化が進み、オペレーターにも高い技量が求められる状況となってきました。

このような中で、従業員が労働災害に罹災するケースも想定されるだけに、畜産業における安全対策の重要性も増していると考えています。

この事例集は、畜産現場において発生した災害の発生状況や原因・対策などをまとめたものです。

従業員の安全教育や事業主の安全対策などで幅広くご活用ください。



家畜改良センター・安全訓

- 一、めんどろうと思うな、保護具が、身を守る
- 一、確認は、ひとに頼るな、任せるな
- 一、ぬかるな段取り、ぬかすな手順
- 一、あぶないと、気付いた所は、すぐなおせ
- 一、あなどるな、ちょっとしたしたこと、馴れたこと
- 一、共同作業は、声をかけよう、答えよう
- 一、終わりまで、こころのネジを、ゆるめるな

今日も一日ご安全に！
(ご安全に！)

保護具の種類と作業時の服装

保護帽 (ヘルメット)

- ・ 墜落時保護用
- ・ 飛来・落下物用
- ・ 電気用兼用

保護メガネ

- ・ 飛来物防止用
- ・ 粉じん防止用
- ・ 液体飛まつ防止用

防塵・防毒マスク

- ・ 防塵用 (粉じんミスト)
- ・ 防毒用 (有毒ガス)
- ・ 衛生用 (ウイルス)

耳栓、耳覆い

- ・ 騒音による聴力障害の防止用
- ・ 防寒用

保護手袋

- ・ 切創防止用
- ・ 耐熱・低温用
- ・ 耐薬品・耐油用

安全帯

- ・ 墜落、転落防止用 (高さ2m以上の高所作業)

安全 (長) 靴

- ・ 重作業用
- ・ 普通作業用 (重量物落下・踏抜き防止)

保護衣

- ・ 皮膚の傷害防止用
- ・ 帯電、火傷防止用 (長袖で袖口や裾が締まったもの)



※作業内容により装着しなければならない保護具が法令等で定められています。法令に定めがなくても、作業に合った保護具を装着し、労働災害から身体を守りましょう。

事故の型（労働災害の種類）

※赤字は、家畜改良センターでの分類

事故型分類	説明
墜落、転落	人が樹木、建築物、足場、機械、乗物、はしご、階段、斜面等から落ちることをいう。乗っていた場所がくずれ、動揺して墜落した場合、砂ビン等による蟻地獄の場合を含む。車輛系機械などとともに転落した場合を含む。交通事故は除く。感電して墜落した場合には感電に分類する。
転倒	人がほぼ同一平面上で転ぶ場合をいい、つまずきまたは滑りにより倒れた場合をいう。車輛系機械などとともに転倒した場合を含む。交通事故は除く。感電して倒れた場合には感電に分類する。
激突	墜落、転落および転倒を除き、人が主体となって静止物または動いている物にあたった場合をいい、つり荷、機械の部分等に人からぶつかった場合、飛び降りた場合等をいう。車輛系機械などとともに激突した場合を含む。交通事故は除く。
飛来、落下	飛んでくる物、落ちてくる物等が主体となって人にあたった場合をいう。研削といしの破片、切断片、切削粉等の飛来、その他自分が持っていた物を足の上に落とした場合を含む。容器等の破裂によるものは破裂に分類する。
崩壊、倒壊	堆積した物（はい等も含む）、足場、建築物等が崩れ落ちまたは倒壊して人にあたった場合をいう。立てかけてあった物が倒れた場合、落盤、なだれ、地すべり等の場合を含む。
激突され	飛来落下、崩壊、倒壊を除き、物が主体となって人にあたった場合をいう。つり荷、動いている機械の部分などがあたった場合を含む。動物に蹴られる場合を含む。交通事故は除く。
はさまれ、巻き込まれ	物にはさまれる状態および巻き込まれる状態をつぶされ、ねじられる等をいう。プレス of 金型、鍛造機のハンマ等による挫滅創等はここに分類する。ひかれる場合、動物に踏まれる場合を含む。交通事故は除く。
切れ、こすれ	こすられる場合、こすられる状態で切られた場合等をいう。刃物による切れ、工具取扱中の物体による切れ、こすれ等を含む。
踏み抜き	くぎ、金属片等を踏み抜いた場合をいう。床、スレート等を踏み抜いたものを含む。踏み抜いて墜落した場合は墜落に分類する。
高温・低温の物との接触	高温または低温の物との接触をいう。高温または低温の環境下によく露された場合を含む。 〔高温の場合〕火炎、アーク、熔融状態の金属、湯、水蒸気等に接触した場合をいう。炉前作業の熱中症等高温環境下によく露された場合を含む。 〔低温の場合〕冷凍庫内等低温の環境下によく露された場合を含む。
有害物等との接触	放射線による被ばく、有害光線による障害、CO中毒、酸素欠乏症ならびに高気圧、低気圧等有害環境下によく露された場合を含む。
感電	帯電体に触れ、または放電により人が衝撃を受けた場合をいう。 〔起因物との関係〕 金属製カバー、金属材料等を媒体として感電した場合の起因物は、これらが接触した当該設備、機械装置に分類する。
爆発	圧力の急激な発生または開放の結果として、爆音を伴う膨張等が起こる場合をいう。破裂を除く。水蒸気爆発を含む。容器、装置等の内部で爆発した場合は、容器、装置等が破裂した場合であってもここに分類する。 〔起因物との関係〕 容器、装置等の内部で爆発した場合の起因物は、当該容器、装置等に分類する。 容器、装置等から内容物が取り出されまたは漏えいした状態で当該物質が爆発した場合の起因物は、当該容器、装置等に分類せず、当該内容物に分類する。
破裂	容器、または装置が物理的な圧力によって破裂した場合をいう。圧かきを含む。研削といしの破裂等機械的な破裂は飛来落下に分類する。 〔起因物との関係〕 起因物としてはボイラー、圧力容器、ポンペ、科学設備等がある。
火災	〔起因物との関係〕 危険物の火災においては危険物を起因物とし、危険物以外の場合においては火源となったものを起因物とする。
交通事故	交通事故のうち道路交通法適用の場合をいう。
動作の反動、無理な動作	上記に分類されない場合であって、重い物を持ち上げて腰をぎっくりさせたというように身体の動き、不自然な姿勢、動作の反動などが起因して、すじをちがえる、くじく、ぎっくり腰およびこれに類似した状態になる場合をいう。バランスを失って墜落、重い物を持ちすぎて転倒等の場合は無理な動作等が関係したものであっても、墜落、転倒に分類する。
その他	上記のいずれにも分類されない傷の化膿、破傷風等をいう。蜂刺され、動物に噛まれる、注射針が刺さる場合を含む。

まえがき

- 参考 ①安全訓／保護具の種類と作業時の服装
②事故の型（労働災害の種類）

【目次】

【墜落、転落】

- ①カウストールから飛び降りて通路へ墜落。…………… 1
②トラクターに後ろから登り、足を滑らせて胸を強打。…………… 2

【転倒】

- ①後ろに下がる際、高圧洗浄機のホースに足を取られ転倒し骨折。…………… 3
②凍結した牛舎エプロン部で牛に引っ張られて転倒。…………… 4

【飛来、落下】

- ①鉬塩を足に落とし打撲。…………… 5
②スキッドステアローダーで持ち上げた乾草ロールがフロントガラスに落下。…………… 6

【激突】

- ①哺乳バケツを取り外そうとして手がカウハッチに激突。…………… 7
②トラクターに取り付けた作業機から降りようとして臀部を強打。…………… 8

【激突され】

- ①フリーストール内で牛に頭突きされ飛ばされる。…………… 9
②牛の直腸検温をしようとした際、後脚で2回蹴られる。…………… 10
③豚房の更褥作業の際、豚に後ろから突かれた。…………… 11
④馬が後肢を高く蹴り上げて、蹄が顔面に当たった。…………… 12

【はさまれ、巻き込まれ】

- ①スタンションに手を入れ、牛の頭とパイプに挟まれた。…………… 13
②牛が誘導柵に突進し、指を引き綱と誘導柵の間に挟まれた。…………… 14
③乳房炎牛の前搾りで足を踏まれる。…………… 15
④スキッドステアローダーから降りようとして、アームに足を挟まれる。…………… 16

【切れ、こすれ】

- ①削蹄中、牛が動いてグラインダーが手に当たり受傷。…………… 17
②ミキシングフィーダーの内部に入り、オーガーナイフで足を切った。…………… 18
③振り向きざまに隣の作業員のホーが足に刺さった。…………… 19

【高温・低温の物との接触】

- タンクから溢れた液体窒素が足にかかり受傷。…………… 20

【有害物等との接触】

- スノコの消毒で石灰乳の飛沫が目に入り受傷。…………… 21

【その他】

- 山羊の削蹄中、他の山羊に耳を咬まれる。…………… 22

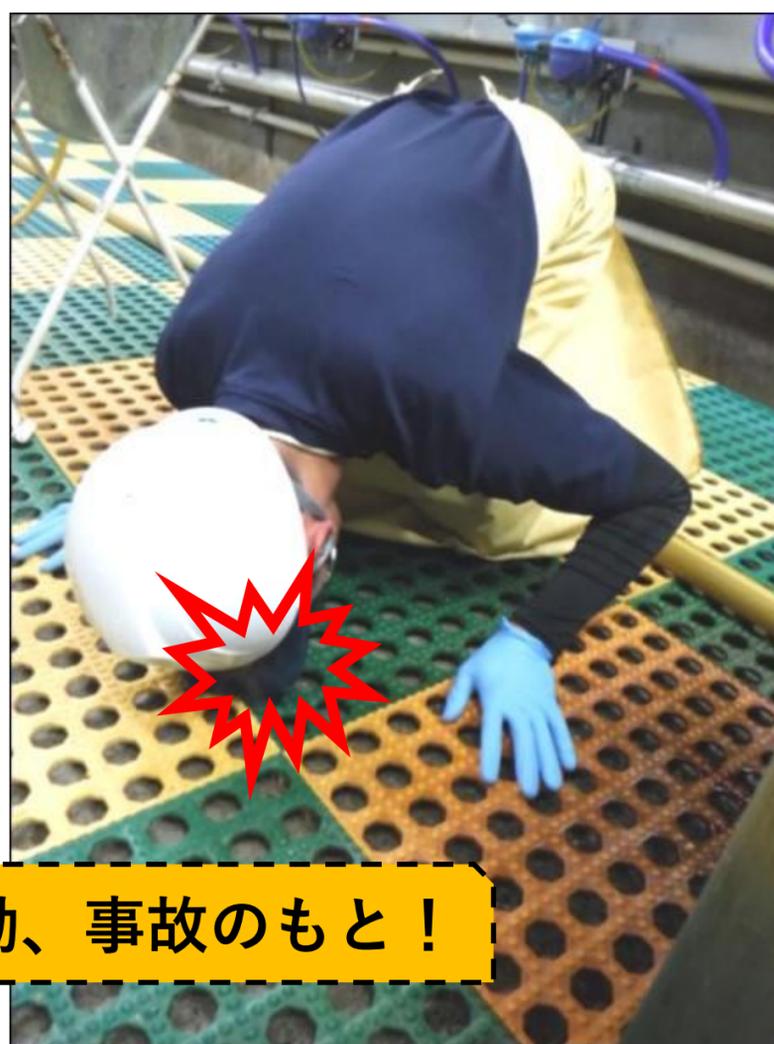
墜落、転落 ① (家畜飼養管理関連)

カウストールから飛び降りて、通路へ墜落

- 傷病名：顔面挫創・皮膚欠損、右手打撲、頸椎捻挫
- 傷病の程度：2週間の通院加療

発生状況

乳牛の搾乳後にカウストールを洗浄していた際、通路向かい側のミルクメーターの蓋が外れライン洗浄水が吹き出ているのを発見し、これを直すためカウストールからバーを乗り越え直接通路に降りようとして足を滑らせ、通路に墜落。



●近道行動、事故のもと！

原因と対策

〔原因〕

- ① 焦って最短距離のカウストールバーを越えて飛び降りようとしたこと。また、洗浄水で足下が滑りやすかったこと。
- ② 保護帽のあご紐が緩く、墜落の衝撃で保護帽が後方にズレたこと。

〔対策〕

- ・ カウストールのバーを越えて通路に降りない。必ず両側の昇降用ハシゴか階段を利用すること。ハシゴを利用する場合は手摺をしっかりと握り、後ろ向きで降りること。保護帽のあご紐はきっちり締めること。

墜落、転落 ② (粗飼料生産関連)

トラクターに後ろから登り、足を滑らせて胸を強打

●傷病名：右肋骨骨折

●傷病の程度：1ヶ月の通院安静加療

発生状況

トラクターに牽引トレーラーを装着する際、トラクター後部に登り、運転席の油圧スイッチを操作しようとしたところ、足が外れ、バランスを崩して滑り落ち、胸を運転席の窓枠に強打した。



●面倒と思う気持ちが事故を呼ぶ！



原因と対策

〔原因〕

- ・ 運転席へ戻る煩わしさから、必要な作業手順を省略し、トラクター後部に上って油圧スイッチを操作したこと。

〔対策〕

- ・ 油圧スイッチを操作する際は、必ず運転席へ戻って操作する。

転倒 ① (家畜飼養管理関連)

後ろに下がる際、高圧洗浄機のホースに足を取られ転倒し骨折

- 傷病名：左手首骨折
- 傷病の程度：全治2カ月

発生状況

豚舎豚房床の洗浄作業中、後方へ移動した際、高圧洗浄機のホースに足を取られて転倒し、手をつき受傷。



原因と対策

〔原因〕

- ・ 高圧洗浄機のホースがよじれていたところに、後方を確認しないまま、後ずさり移動したこと。

〔対策〕

- ・ 作業時は移動方向に視線を向け、歩行の障害物がないか確認すること。

転倒 ② (家畜飼養管理関連)

凍結した牛舎エプロン部で、牛に引っ張られて転倒

- 傷病名：左肩関節捻挫、左肘打撲及び擦過創、頸椎捻挫
- 傷病の程度：全治2カ月

発生状況

繁殖室から牛舎へ牛を戻す際、牛が別方向へ移動しようとしたため、手綱を引き制御しようとしたところ、牛舎エプロン部分が凍結していたため、転倒した。(エプロン：建物出入口のコンクリート打ちされた平面)



●凍結＝転倒と心得よ！

原因と対策

〔原因〕

- ① 牛舎のエプロン部分が凍結し、その上に雪が薄く積もって非常に滑りやすい状態となっていたこと。
- ② そのような状態であるにもかかわらず、滑り止めのための融雪剤や砂の散布を行っていなかったこと。

〔対策〕

- ① 冬季は融雪剤や砂を常備し、天候に応じて散布すること。
- ② 凍結面の上では無理な動きをしないこと。

飛来、落下 ① (家畜飼養管理関連)

鉍塩を足に落とし打撲

- 傷病名：右足打撲
- 傷病の程度：1週間の加療

発生状況

台車上の鉍塩を保管場所に置くため、段ボール箱を持ち上げた際、**段ボール箱の底が抜けて鉍塩（約22kgの塩塊）が右足に落下し負傷した。**



- 段ボールは底に手を掛け
対角線で持つ！

原因と対策

〔原因〕

- ・ 鉍塩の入っていた段ボール底面のガムテープが湿気等により剥がれやすくなっていた状態で**段ボールの側面**に手を掛けて持ち上げたこと。

〔対策〕

- ・ 重量物の入った箱の移動作業では、**梱包状況をチェックし、底が抜けないように底面に手をあてる**などして持ち上げる。安全長靴を着用すること。

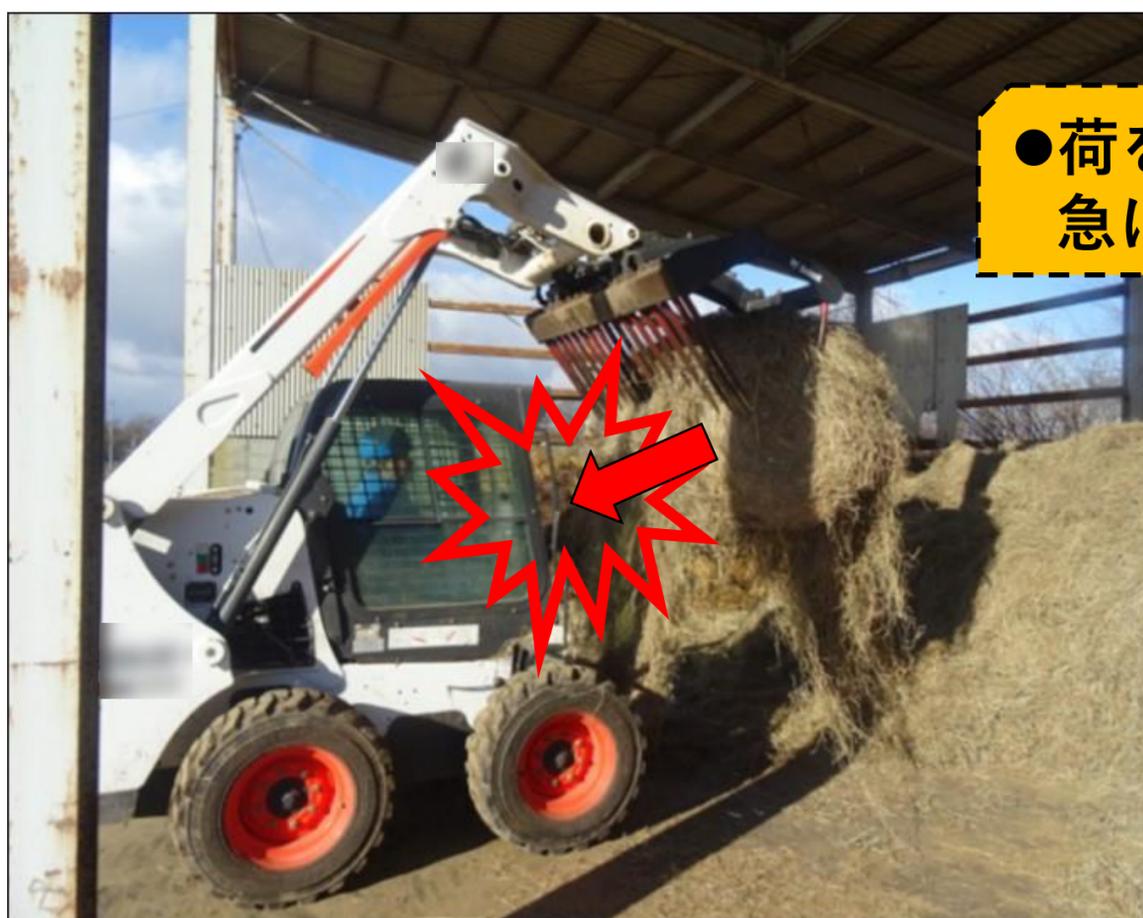
飛来、落下 ② (家畜飼養管理関連)

スキッドステアローダーで持ち上げた乾草ロールが、フロントガラスに落下

- 傷病名：眼への外傷疑い
- 傷病の程度：3日分点眼薬処方

発生状況

乾草ロールをほぐす作業の際、スキッドステアローダーで持ち上げた乾草ロールが、グラップルフォークから外れ、フロントガラスに当たり、割れたフロントガラスの破片が運転者の顔と体に当たった。



- 荷を高く上げて急にダンプさせない！



原因と対策

〔原因〕

- ① グラップルフォークで乾草ロールをしっかりと掴めていなかったこと。
- ② アームを上昇させ、重心が高くなった状態で重量のある乾草ロールを揺すったこと。

〔対策〕

- ① グラップルフォークに限らず、バケットなどのアタッチメントでの作業においても、アームを高く上げ、荷重の大きいものを扱う際は、ダンプやすくい動作、前後進での急な操作は行わないこと。
- ② 乾草ロールのほぐし作業は、ロールを地上に置き、アームを低い位置で操作する方法に変更すること。

激突① (家畜飼養管理関連)

哺乳バケツを取り外そうとして、手がカウハッチに激突

- 傷病名：右手親指裂傷及び甲部打撲
- 傷病の程度：全治1週間

発生状況

子牛の哺乳バケツを回収した際、バケツの取手付根部に牛のネックストラップが絡まっていたため、バケツを強くに引き抜こうとしたところ、右手親指が取手付根部に強く当たり右手親指を裂傷。その後、バケツからネックストラップが外れた反動で右手甲部がカーフハッチの側壁に強く当たり打撲。



●正しい手順と確かな動作、心のゆとりが事故防ぐ！

原因と対策

〔原因〕

- ① 哺乳バケツの取手付根部にネックストラップが絡まりやすく、怪我をしやすい構造であったこと。
- ② 哺乳バケツの取手付根部を持ち、急いで強引に取ろうとしたこと。

〔対策〕

- ① 哺乳バケツは取手部分を持つこと。また、哺乳バケツの取手付根部を怪我をしないような構造及びネックストラップが絡まないような構造に改良すること。
- ③ 哺乳後にバケツを取り上げる際は、子牛が自然に哺乳バケツから離れるのを待つ又は子牛を哺乳バケツから確実に離してから哺乳バケツを取り上げること。

激突②（粗飼料生産関連）

トラクターに取り付けた作業機から降りようとして臀部を強打

- 傷病名：尾骨部打撲
- 傷病の程度：1週間の安静加療

発生状況

トラクターにディスクハローを装着し、地上に降りる際、ディスクハローの後方下部にあった車幅確認用の反射板に尾骨部付近を強打し受傷。



●機械から降りる際は
足下＋後方確認！



反射板

原因と対策

〔原因〕

- ・ 地上に降りる際に後方をよく確認せずに降りたこと。

〔対策〕

- ・ 機械から降りる際は、後方をよく確認してから次の行動を行うこと。
また、反射板上部にカバーを付け、接触しても怪我をしない構造とすること。

激突され① (家畜飼養管理関連)

フリーストール内で牛に頭突きされ飛ばされる

- 傷病名：右膝裂創
- 傷病の程度：10日間の加療

発生状況

フリーストール牛舎で妊娠鑑定作業を行っていた際、背後から忍び寄ってきた牛に複数回頭突きされ、スタンション柵（高さ1.4m）を飛び越えて飼槽側に投げ出され、着地時に右膝を裂創。



突き上げた危険牛

●危険牛は作業前に係留または隔離する！

原因と対策

〔原因〕

- ① 当該牛は危険牛として赤い頭絡を装着し、注意喚起していたが、**妊娠牛を探すことに気を取られ、危険牛に気付くのが遅れたこと。**
- ② 携帯用超音波診断装置を持っていたため退避行動が遅れたこと。

〔対策〕

- ① 危険牛がいる牛房では、**危険牛を牛房扉で追い込むか、スタンションロックしてから作業を開始すること。**
- ② **危険牛がいる牛房では、2名以上で作業を行うこと。**

激突され②（家畜飼養管理関連）

牛の直腸検温をしようとした際、後脚で2回蹴られる

- 傷病名：右膝打撲
- 傷病の程度：全治1週間

発生状況

直腸検温を行うため、5頭の成雌牛をスタンションに保定し、後方からいきなり肛門に体温計を差し込んだ際、不意に牛が右後肢を蹴り上げ、右膝内側を2度蹴りつけられて受傷した。



- いきなり牛に触らない！
- 触る前に声かけする！

原因と対策

〔原因〕

- ・ 当該牛は気性が荒いが、当日は落ち着いていたため、油断して声かけ等を行わずに作業したこと。

〔対策〕

- ・ 検温や注射等、牛が嫌がる作業を行う場合は、声かけや牛に触るなどしながら、細心の注意を払いつつ作業を進めること。また、対象牛だけでなく、隣や近くにいる牛の動きにも注意すること。

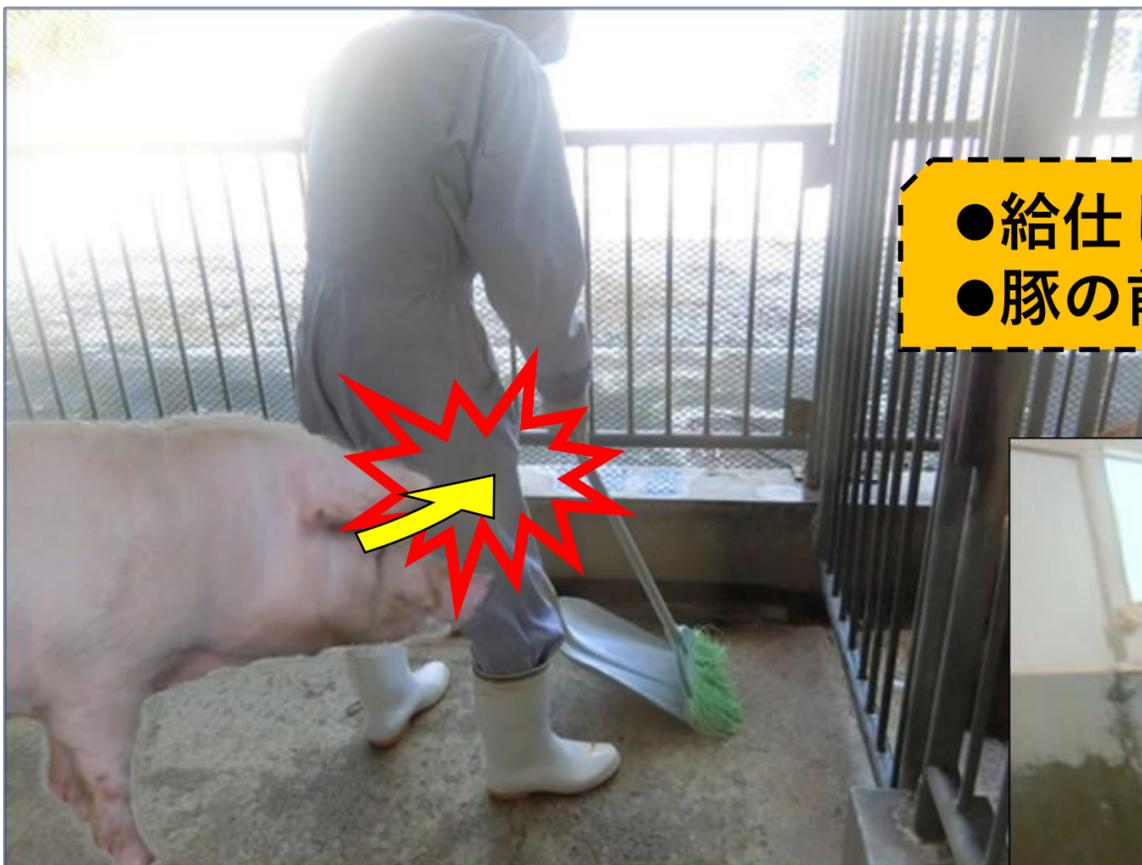
激突され③ (家畜飼養管理関連)

豚房の清掃作業の際、豚に後ろから突かれた

- 傷病名：右大腿部裂創
- 傷病の程度：全治3週間

発生状況

雄豚の豚房に入り、畜舎の清掃作業を行っていた際、豚が背後から突進してきて、豚の牙が右大腿部に当たり受傷。



- 給仕してから豚房に入ること！
- 豚の前には立たないこと！



原因と対策

〔原因〕

- ・ 清掃の**作業手順**（予め給餌をおこない、採食に夢中になっている際に作業を行う。）を**守らず**、給仕せずに**豚房に入り清掃作業**を行ったこと。

〔対策〕

- ・ 清掃作業等を実施する際は、豚に**給餌により誘導し**、**安全を確保してから作業**を行うか、または**豚を他の単房等に移動**してから行うこと。

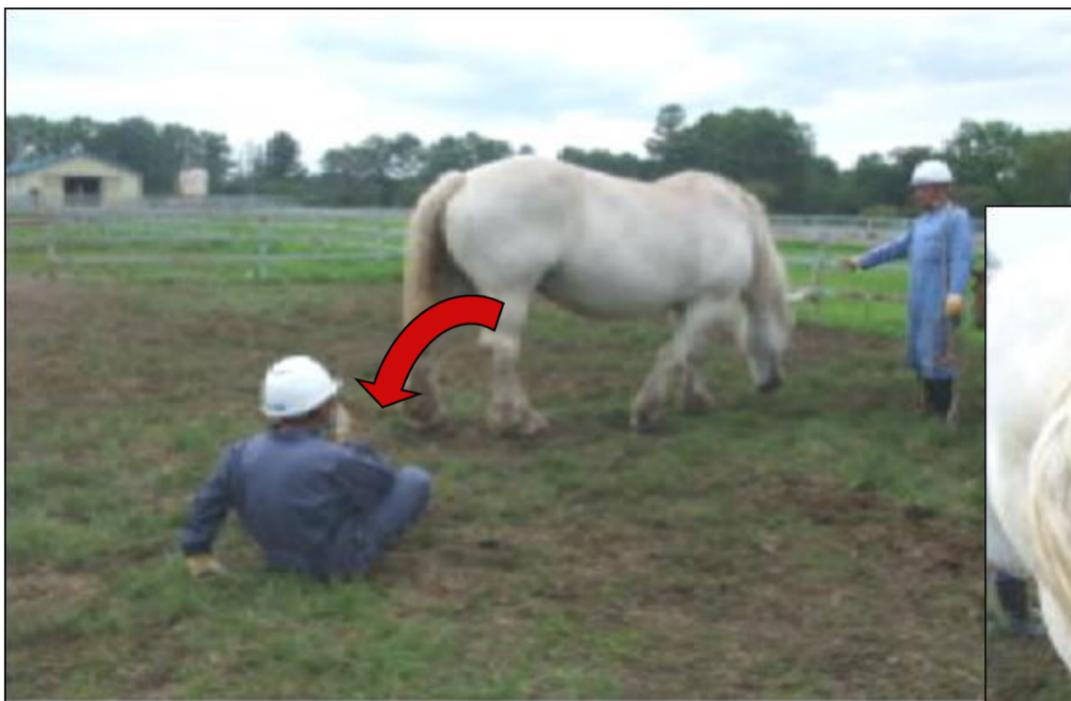
激突され④（家畜飼養管理関連）

馬が後肢を高く蹴り上げて、蹄が顔面に当たった

- 傷病名：顔面打撲
- 傷病の程度：3日間の安静

発生状況

馬の体重測定を行うためパドックで馬を捕まえる作業を行っていた際、捕まえた馬が逃げたことから、その馬に近づいていったところ、馬が突然跳びはねて後肢を高く蹴り上げ、蹄が作業員の顔面に当たり受傷。



- 興奮した馬には近づかない！

原因と対策

〔原因〕

- ① 馬の動きが落ち着かないうちに捕まえようとしたこと。
- ② 事故が起きたときはパドックにいた馬の頭数が少なく、動き回れる範囲が大きかったこと。また、蹴り上げた馬が若齢馬で成馬に比べて落ち着きがなかったこと。

〔対策〕

- ① 馬を移動した後、馬の動きが落ち着くまで待ってから捕獲すること。
- ② 馬の急な動きを感じた時は、互いに声かけを行い注意喚起すること。

はさまれ、巻き込まれ①（家畜飼養管理関連）

スタンションに手を入れ、牛の頭とパイプに挟まれた

- 傷病名：右手打撲
- 傷病の程度：軽傷

発生状況

スタンションのロックを解除したが牛が動かず、牛の首が入る所から頭部側に手を入れて追い出して移動させようとしたところ、牛が頭を上げたためにスタンションの上部パイプと牛の頭との間に右手を挟まれ受傷。



- 牛の入っているスタンションに手を入れると挟まれる！

原因と対策

〔原因〕

- ① 被災した作業員は採用されたばかりで、スタンションに入っている牛の行動を予想できなかったこと。
- ② 牛が入っているスタンション部分に手を入れて追い出そうとしたこと。

〔対策〕

- ① スタンションの構造と予想される牛の行動について事前に説明すること。
- ② 牛を追い出す際は、首の入っていないところから行うこと。

はさまれ、巻き込まれ②（家畜飼養管理関連）

牛が誘導柵に突進し、指を引き綱と誘導柵の間に挟まれた

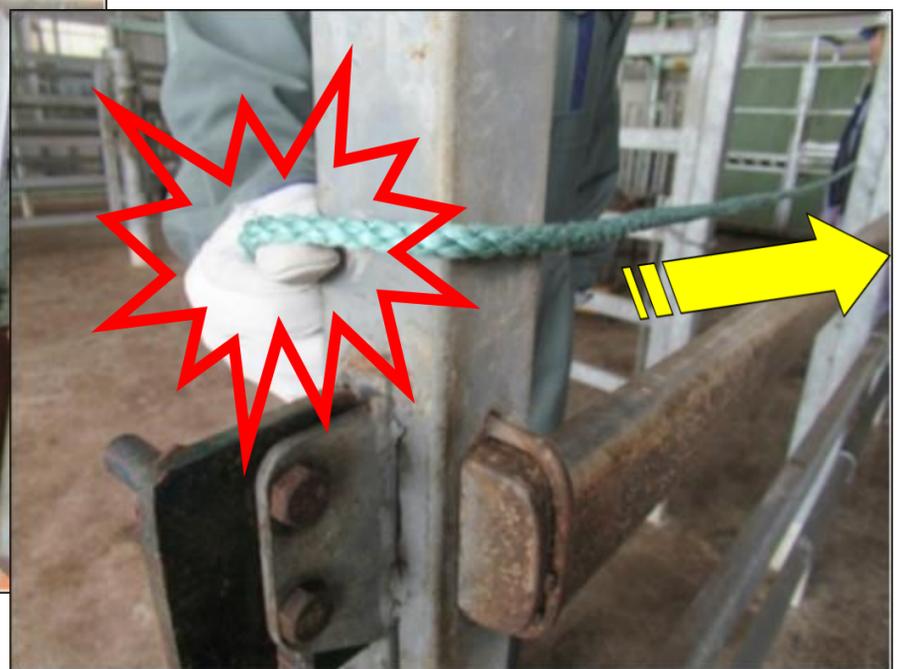
- 傷病名：右第1末節骨骨折、伸筋肉腱断裂(マレット指)
- 傷病の程度：10日間の休業

発生状況

肥育牛の出荷作業において、出荷牛（920kg）の頭絡に繋いだロープを引き、誘導柵に移動させようとしていたところ、牛が急に誘導柵の中に突進し、ロープを持った右手親指が、ロープと誘導柵鉄柱の間に挟まれ受傷。



- ロープはいつでもリリースできるように持つ！



原因と対策

〔原因〕

- ① 牛が急に突進したこと。
- ② 突進した牛を制止しようとして、咄嗟とっさにロープを強く握ったこと。

〔対策〕

- ① 慣れている牛でも、出荷作業など非日常的な環境に置かれると、牛は興奮し予期せぬ行動を取ることを認識し、十分注意しながら作業すること。
- ② 牛を引くロープを扱う際は、急な行動にも対応出来るよう、いつでもリリース可能な状態にしておくこと。

はさまれ、巻き込まれ ③ (家畜飼養管理関連)

乳房炎牛の前搾りで足を踏まれる

- 傷病名：右母趾基節骨骨折
- 傷病の程度：全治2ヶ月

発生状況

乳房炎牛の前搾りをするため、牛に触りつつ、牛体左側乳房付近にしゃがんで右前乳頭から作業を始めようとしたところ、牛が突然被災者側に尻を振り、左後肢で右足甲部分を踏まれた。安全長靴は履いていたが、先芯により保護されていない部分を踏まれたために受傷。



- 牛の蹄の着く範囲内にはできるだけ自分の足を置かない！

原因と対策

〔原因〕

- ① 牛の蹄の着く範囲内に右足を置いていたこと。
- ② 牛の踏み換える動作を見逃し、退避行動が遅れたこと。

〔対策〕

- ① 牛の蹄が着く範囲内に足を置かないこと。また、右足に重心を置かないこと。
- ② 乳房炎牛の搾乳では脚を上げることが多いため、動作を見逃さないこと。

はさまれ、巻き込まれ④ (家畜飼養管理関連)

スキッドステアローダーから降りようとして、アームに足を挟まれる

- 傷病名：右母趾基節骨骨折
- 傷病の程度：全治2ヶ月

発生状況

スキッドローダーから降りようとして、バケットが浮いた状態でエンジンをかけたまま安全バーを引き上げ、機内から出ようとしたところ、左手が安全バーに触れたために安全装置が解除され、踏み混んだ左足のペダル操作が有効となり、10cm程度浮いていたバケットアームが下がり、右足がステップとの間に挟まれた。



- バケットを下ろし、エンジンを切ってから降りる！

原因と対策

〔原因〕

- ① バケットを下げないまま、エンジンを停止せずに機内から出ようとしたこと。
- ② 安全バーに触れてしまったこと。

〔対策〕

- ① 作業機械から降りる際は、バケットを最低降下位置まで下ろした後にエンジンを停止させ、安全バーをあげて降りる手順を徹底すること。
- ② 降車時の手順を作業機械に明示すること。

切れ、こすれ① (家畜飼養管理関連)

削蹄中、牛が動いてグラインダーが手に当たり受傷

- 傷病名：左第1指裂創
- 傷病の程度：軽傷

発生状況

削蹄作業用グラインダーを用いて削蹄中、保定中の牛が動いたため、右後肢に当てていたグラインダーが蹄に強く接触して弾かれ、蹄に添えていた左手親指にグラインダーが接触し受傷。



●正しい装備で作業を！



「牛の護蹄マニュアル」
(社)畜産技術協会 より

原因と対策

〔原因〕

- ① 保定が不十分だったこと。また、受傷する危険性のある位置に左手を添えて作業を行っていたこと。
- ② 薄いニトリルグローブを装着して作業していたこと。

〔対策〕

- ① 保定を確実に行うこと。
- ② 革手袋や耐切創の手袋を用いて作業を行うこと。

切れ、こすれ②（家畜飼養管理関連）

ミキシングフィーダーの内部に入り、オーガーナイフで足を切った

- 傷病名：右足部切創
- 傷病の程度：1週間の加療

発生状況

ミキシングフィーダーでヘイレージと乾草等を混合する作業の際、ラップ乾草を投入したところ、フィーダーのオーガー部が詰まったため、詰まりを解消するためにフィーダー内部に入った際、足の甲がオーガー部の刃に当たり受傷。



- 危険な状態をつくらない！
- 防護具を着ける！

原因と対策

〔原因〕

- ① 詰まった粗飼料を急いで取り除こうとし、安全確認を怠ったこと。
- ② 防護具なしでフィーダー内に入ったこと。

〔対策〕

- ① フィーダーに粗飼料が詰まることのないよう、投入の際は出来るだけ少量ずつ投入すること。
- ② フィーダー内部で作業しなければならない場合は、足の甲などにプロテクターを装着し作業を行うこと。

切れ、こすれ③（粗飼料生産関連）

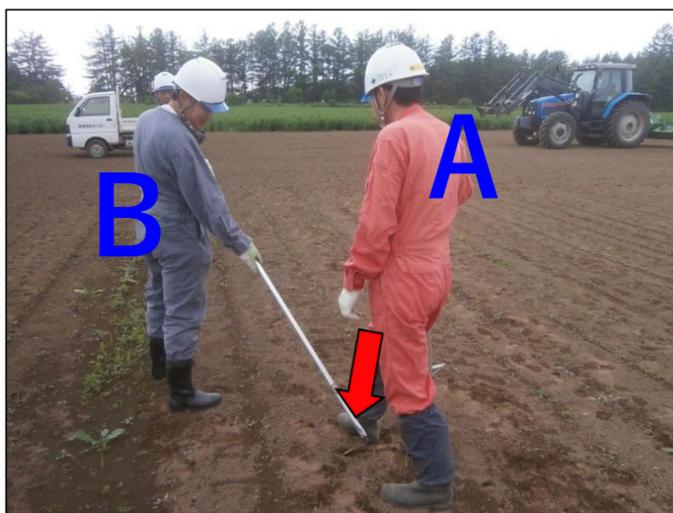
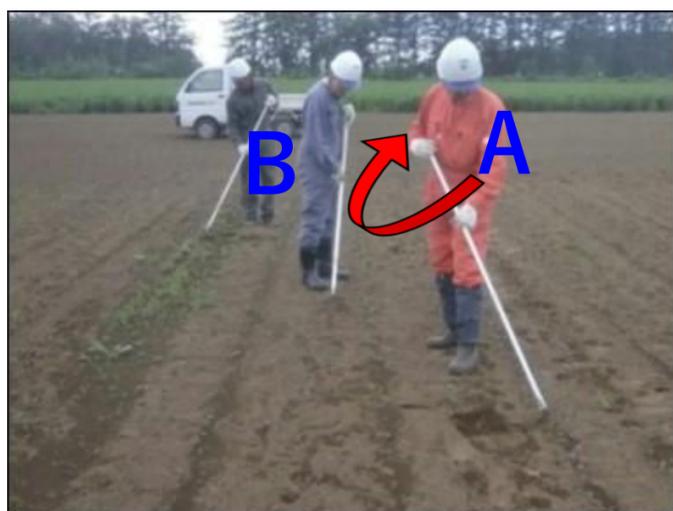
振り向きざまに隣の作業員のホーが足に刺さった

●傷病名：左下腿裂創

●傷病の程度：3日間の安静加療（2針縫合）

発生状況

作業員Aが後ろから呼ばれて振り向いた拍子に、隣の作業員Bの除草用ホーの刃を踏んでしまい、作業員Bが踏まれたホーを慌てて引き上げようとしたところ、ホーの刃が作業員Aの膝内側に刺さり受傷。



- 除草用ホーは鋭利な刃物！
- 常に周りをよく見て行動する！



原因と対策

〔原因〕

- ① 作業を急いでいたため、密集して作業していたこと。
- ② まわりをよく見ておらず、近くに他の職員がいることに気付かなかったこと。

〔対策〕

- ① 研いだホーは鋭利な刃物であり、使い方を誤ると大きな事故に繋がる危険な作業であることを、作業前に全作業員に改めて共有すること。
- ② ホーによる除草作業に当たっては、隣り合わせで作業をせず畦を空ける等の安全対策を徹底すること。

タンクから溢れた液体窒素が足にかかり受傷

- 傷病名：左足Ⅲ度熱傷
- 傷病の程度：約2ヶ月間の治療を要す

発生状況

液体窒素タンクに液体窒素を補充し、タンクの蓋を閉めた際に液体窒素が溢れ、左足にかかり受傷。

- 液体窒素温度は -196°C !
- 爆発・窒息・凍傷に注意!



原因と対策

〔原因〕

- ① 液体窒素タンクへの補充量が多すぎ、蓋を閉めると溢れる状態であったこと。
- ② 当該タンクは他のタンクに比べて蓋が硬いため、閉める際により強い力が必要であったこと。そのため、蓋が閉まった際に勢いよく液体窒素が溢れたこと。
- ③ 慣れた作業のため、液体窒素の危険性について意識が欠如していたこと。

〔対策〕

- ① 液体窒素を取扱う際は、専用長靴、超低温液体ガス専用手袋を着用すること。
- ② タンクへの補充には、専用スケールで補充量を計測しながら実施すること。

有害物との接触 (家畜飼養管理関連)

スノコの消毒で石灰乳の飛沫が目に入り受傷

- 傷病名：右角膜化学薬傷
- 傷病の程度：全治3週間

発生状況

豚房に敷くスノコを消毒するため、石灰乳に浸す作業を行っていた際、全体が浸るようスノコを揺らしたところ、石灰乳の飛沫が作業員の右目に入り受傷。



原因と対策

〔原因〕

- ・ 作業後に打ち合わせが予定されていたので、**時間内に作業を終えなければという焦りの気持ちがあり、ゴーグルの着用を怠ったこと。**

〔対策〕

- ・ どんな状況でも、**保護具を着用**すること。また、石灰乳等の薬液を取り扱う際は、液が体に付着しないよう、**ゴーグルに加え、マスク、ゴム手袋、前掛けを着用**すること。

その他（家畜飼養管理関連）

山羊の削蹄中、他の山羊に耳を咬まれる

- 傷病名：咬傷
- 傷病の程度：全治1週間

発生状況

パドック内で山羊の削蹄作業を行っていた際、他の山羊が作業員のヘルメットの顎紐に興味を示し接近してきて、顎紐に加えて作業員の耳も咬んだため出血した。



- 山羊は好奇心が強い！
- 山羊の歯は鋭い！

原因と対策

〔原因〕

- ① 山羊は好奇心が強く、ヘルメットの顎紐等に興味を示す認識が薄かったこと。
- ② 削蹄対象の山羊と他の山羊を分離して作業していなかったこと。
- ③ 削蹄作業に集中し、他の山羊の接近に気が付かなかったこと。

〔対策〕

- ① 削蹄作業は、他の山羊と分離して行うこと。
- ② パドック内では、常に山羊の動きに注意すること。



畜産関係災害事例集 令和2年6月29日発行

発行 独立行政法人 家畜改良センター
連絡先 〒961-8511 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字小田倉原 1
電話 0248 (25) 2231
FAX 0248 (25) 3990
Eメール：inquiry@nlbc.go.jp
インターネットアドレス <http://www.nlbc.go.jp/>